

一緒にしましょう コミュニティづくりを!

# 中野ふくし倶楽部通信

「中野ふくし倶楽部」は、主に中野区に暮らす人々の福祉の向上と子どもたちの豊かな育ちに貢献することを目的としています。

NPO 法人 中野ふくし倶楽部  
発行責任者 田中芳樹  
中野区中央 4-53-7 YHNビル 101  
TEL 03-3384-5616  
<http://www.nfcaozora.org/>

## あおぞら **スキルアップ研修…有意義に、楽しく**

在宅介護支援サービス

# Now

あおぞらでは、毎月ヘルパーさんのスキルアップ研修を続けています。専門家の方もお招きし様々なテーマで行います。今年のテーマを、参加されたヘルパーさんの感想を交えてご紹介します。

### 2019 年 スキルアップ研修

- 2月 アツと思ったら…救急対応
- 3月 チームクッキング  
サービスに活かせる調理
- 4月 事例検討 法改正
- 5月 コミュニケーションの取り方
- 6月 食中毒、感染症、高齢者の疾病と薬
- 7月 ヘルパーグループディスカッション
- 9月 防災、災害、緊急時対応
- 10月 福祉用具の知識（車イス）

※8月は暑気払いを行いました  
※11月は「高齢者虐待」を予定しています

「“自分の感”を大事にする一方、それを単なる“感”に終わらせず、科学にするためにケア知識を学ぶことが必要。」(2月)

「認知の高齢者のケアには、適切なアプローチが大切だと思います。利用者様の小さな変化など見逃さないように、笑顔でゆっくり話しかけたいと思います。」(5月)

「毎月とても楽しく学ばせて頂いている。もっと皆様が出席できるとよいと思います。」「専門家のお話は良いですね。」(6月)

「同じ食材でも調理方法や味付けで別のおかずになるのが驚きだった。」  
「4品が出来上がり色鮮やかに仕上がりました。」「チームワークもとてもよかった。」(3月)

「今回の寸劇の例に沿って、よい例、悪い例を実演によって確かめられたこと、面白くもあり、身に染みて再確認できました。」(5月)

「人によって状態、能力の違いがあったり、車イスを使用している時の、危ない事例など、注意すべきことを改めて教えていただきました。」(10月)

「心臓マッサージの意味は初めて聞いて参考になりました。」「トリアージタッグ初めてうかがいました。とても勉強になりました。」「狭いお宅を訪問することも多いので、ベッドまわりの整理等、声掛けしていきたいと思います。」(9月)



介護のご相談は、あおぞら在宅介護支援サービスへ 中野区全域 訪問介護、居宅支援を行っています

## わがママの介護…懐かしい苦勞

塚原哲郎 (中野南部九条の会事務局長  
中野ふくし倶楽部監事)

私の母は 1928 (昭和3) 年、東京生まれ。元公務員。結婚して主婦の傍ら、近くの和菓子工場で働いていました。日常生活に支障をきたし始めたのは 75~6 歳から。2010 年から一人で外出できなくなり、要介護状態になりました。ヘルパーさん、理学療法士さんなどの多くの方々のお世話になりながら在宅介護を続けました。2019 年 4 月、誤嚥性肺炎のため永眠。90 歳でした。母は英語で表現するところ「My mother is my mother」と言うべき人でした。——翻訳すると「私の母は、わが

ママです」  
数年前の初夏のことです。デイサービスに着ていくための新しいシャツを買ってきて欲しいと母から頼まれました。近場のスーパーの衣料品売り場に私は赴き、ピンクと白のストライプのシャツを買い求めました。ピンクは、あまり母の好まない色合いでしたが、高齢な母にも時には艶やかなものも良いのではないかと考えたからです。帰宅後、封を開けて母に見せると「なんだ、この色は!？」の一言。ピンクは年寄り

には不向きだ、とのたまう。仕方なくスーパーの衣料品売り場に私は戻り、同じデザインでブルーと白のシャツに取り換えて貰いました。「これなら、私にも着れる」と母は、いちおう納得しました。

ところが、母は満足してはおらず、ヘルパーさんの中でいちばん気心の知れた S さんにシャツの購入を依頼しました。「うちの息子はセンスが悪いから、S さん、私みたいな年寄り向けのシャツを買ってきてちょうだい」。人の良い S さんは、黒っぽい柄のシャツを買ってきてくださいました。母はたいそう気に入り「ほら、見る。お前と違って、ちゃんと S さんは年寄り向けのシャツを買ってきてくれる」と自慢げに私に見せました。

その夏、母はお気に入りの黒っぽい柄のシャツを着こんで医大病院に検査に行きました。もちろん、私は付き添いです。病院はいつもながら、たいへん混雑していま

した。私たち親子は、廊下の長椅子に座って待っていました。そのときです。頭髪が綺麗に真っ白で、ピンクのシャツを着た母と同年代の小柄な品の良さそうな女性が、前を通り過ぎました。長く待ちましたが、検査・診療は無事に終わり、医師からいくつかの指示・注意を受けて帰宅しました。暫くして落ち着いてからの母の一言。「病院で長椅子に座って待っていたら、ピンクのシャツを着た品の良いおばあさんが通った。同じ年寄りでも、あんな可愛いピンクのシャツを着ている人もいるのに、あーあ、なんで私は年寄り染みだ黒っぽいシャツを着ているんだろう！」

安倍首相の国会答弁のような迷言に、私は椅子から転げ落ちそうになりましたが、今となっては懐かしい思い出です。

## 「全世代型」社会保障で介護人材不足は解消するのか 理事長 矢田 和雄

「税と社会保障の一体改革」の名の下に、10月1日から消費税の10%への値上げが強行されました。今時安倍政権が掲げるのは、憲法改悪の推進と「全世代型」社会保障の推進です。九月に発足した「全世代型社会保障検討会議」のメンバーは財界人が主要メンバーです。

経団連は企業法人税の減税と社会保険料の企業負担の増加を嫌って、消費税の増税を推進してきました。この財界のお先棒を担いで社会保障の改悪を先導するのが財務省です。労働・年金・介護・医療の負担増と給付の削減が検討項目に上げられています。介護の分野では・ケアプラン作成費に自己負担の導入・介護サービスの利用時自己負担（原則1割）について、2,3割負担の対象拡大・要介護1,2の人の生活援助サービスを市区町村事業に移行などなどです。介護の後退にたいして、「保険料を納めた人に、平等に給付を行うのが保険制度の大前提」これを壊すのは「国家的詐欺」と介護保険の創設者が言わざるを得ない（※1）事態です。もう一つは深刻な介護人材不足で介護保険制度はあっても、実際にサービスが受けられないという事態が進行しています。

当法人も求人を出しても応募者が来ないという事態が続いています。特にサービス提供責任者の不足と若手のヘルパー不足は深刻です。消費税の引上げと引き替えに「処遇改善加算」で勤続10年以上に月額8万円の給与引き上げがうたわれていますが、一部の大手企業を除いて、小規模な職場では給与体系に無理が生じます。今介護の危機に求められるのは、介護ウエーブ2019請願署名（※2）にあるように、ケアプランの有料化などの

制度見直しを中止して、すべての介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険財政への国の負担割合の大幅な改善などです。財源は大企業に中小企業並みの法人課税、大株主などへの最高税率の引き上げ、米軍への思いやり予算の廃止など財源はあります。

- ※1：『国家的詐欺』と介護保険の創設者  
介護保険制度の「生みの親」と言われた元厚生労働省老健局長、堤修三氏の発言
- ※2：介護ウエーブ  
全日本民医連などが毎年行っている、安全、安心の介護を求める署名をはじめとした運動のこと



まちかどスケッチ 田中芳樹  
あおぞら事務所近くの、いちよう公園をのぞいてみました。ちょうど公園整備作業中。なにげない公園の環境もこうした仕事によって保たれているのですね。

**登録ヘルパー** **03-3384-5616**  
**大募集!** **あおぞら**  
**若手歓迎!** **在宅介護支援サービス**